

平成 28 年度

宮 田 村 教 育 委 員 会 3 月 定 例 会 々 議 録

1 開催日時：平成 29 年 3 月 6 日(木) 13：30～15：00

2 開催場所：村民会館 第 1 研修室

3 出席委員

- (1) 篠田 秀児 委員長（以下「委員長」と表記。）
- (2) 鷹野 綾子 委員長職務代理者（以下「職務代理」と表記。）
- (3) 古藤 祐巳子 委員（以下「古藤委員」と表記。）
- (4) 伊藤 一幸 委員（以下「伊藤委員」と表記。）
- (5) 平澤 武司 教育長（以下「教育長」と表記。）

4 欠席委員：なし

5 その他、会議に出席した者の氏名

- (1) 本田 秀樹 教育次長（以下「次長」と表記。）
- (2) 北原 敦 学校教育関係長（以下「学校係長」と表記。）
- (3) 平澤 義章 子育て支援係長（以下「子育て係長」と表記。）
- (4) 酒井 秀貴 生涯学習係長（以下「生涯係長」と表記。）
- (5) 梶田 廣文 教育相談員（以下「相談員」と表記。）

6 教育委員長あいさつ

委員長：先日私が村議会で話した原稿について、教育長以外の委員のみなさんにもご確認をお願いしたい。2/28 開催した『学校支援実行委員会・キャリア教育推進協議会』について報告したい。小学校で駐車場整理をしているボランティアのみなさんが、ボランティアであるということを一般の方に理解されておらずいやな思いや危険な目に遭われていると聞き、校長先生が対応することになった。村内で交通事故が 1.5 日に 1 回の割合で発生しているという話があり、区長会長さんから危険個所の対応をしてくださるということになった。交通の危険が増しているのは『子どもの安全見守り隊』の高齢化も関係しているのではないかという話もある。最近、宮田村の中学生が校門の前で生徒が礼をする話が TV やラジオで紹介された。本日もよろしくお願ひします。

7 会議録の承認 2 月定例会（事前配布）

8 議 題

(1) 報 告

報告1号 教育委員会活動報告について 2～3月 (1ページ)

次 長：資料について説明

報告2号 平成29年度教育相談の実績について (別紙)

※個人情報に関することにより資料は非公開とします。

相 談 員：小学校入学における保育園児の就学支援について資料により説明

来年度入学する人数86名のうち、課題を持っている子どもや支援を必要とする子どもは33名(38.4%)。昨年は園児在席が90名の内46名(51%)で高い割合だったが、今年度は少なくなった。33名の内症状が一つに絞れない子は20名。就学支援判定の結果、知障学級入級判定が1名、自・情障学級入級判定6名、伊那養護入学判定2名、通常級判定が2名で合計11名となった。伊那養護入学判定2名のうち1名は宮田小の知障学級入を希望している。結果、来年度は知障学級人数11名、自・情障学級人数26名となり知障学級が1学級増えて2学級、自・情障学級が4学級になる見込み。

就園・就学支援委員会までの教育相談・観察等の経過について資料により説明

①保育園の訪問・観察および園長・担任との懇談は68回、②保護者との相談等は45回、③巡回相談は12回、④病院・心理士によるカンファレンスは10回行った。今年重点を置いたのは、1つ目、母子健康台帳や医療機関で実施の知能、心理検査を活かし、保護者と保育園の先生たちとの気持ちも合わせながら、分かりやすく具体的な情報の共有に心がけてきた。2つ目、保育園と小学校との連携により学校見学、体験入学等を提供した。3つ目、保護者が納得し展望を持って就学判断ができるよう、情報提供等進めた。今後も5歳児検診等利用し、就学相談のガイダンスを行い保護者の理解、啓発にも心がけたい。

小学校における支援について資料により説明

小学校は私自身直接関わった部分は少ないが、①から⑤まで就園就学委員会より判定いただいた。①通常学級から知障学級入級判定2名、②通常学級から自・情障学級入級判定3名、③自・情障学級から知障学級入級判定1名、④あさひ学園から知障学級入級判定1名、⑤中学校進学への判定5名とした。教育相談・観察等の経過について、保護者・担任との教育懇談は回数が昨年に比べ少ないが、これは、支援員の先生方が課題の多い子に対してきめ細かな指導をされたためではないかと考える。今年は運動会や音楽会などの行事で子供たちの様子を見て、支援できることを出していただき、小学校と連携しながら対応した。中学校の該当者はなかったが、保護者と学校、小中連携しての働きかけが大事になる。

教 育 長：一般的には、発達障がいなど課題を抱えた子どもさんは6～7%の在席率。宮田は26年から上がっている。どこの市町村もやや増えているが、宮田の1割以上は極端今後課題だと思ふ。

委 員 長：従来の宮田村在住者かどうかはわかりますか？

相 談 員：分析していないが、支援委員会によると今年の11名のうち他所から来られた方は3名。

職務代理：宮田は子育てしやすいから宮田へ行こうと・・・。

教 育 長：それもあるかもしれない。施策があまり効いてないということになる。

伊藤委員：このデータから見ると、教育相談員が小学校から未就学児に重点を置いているように見えたが、丁寧に見たら人数が増えたという可能性があるのですか？

職務代理：基本的には、就学支援委員会にかけて判定しておしまいではなく、あらゆるデータを見ながら親御さんと相談しながら保育園から小学校に行ってもどうなのかといつも見て必要な支援を考えている。私たちは長いスパンで見ているので、結果的に人数が増えてしまったのかもしれないが、一人ひとり丁寧に見ていくのは基本的な立場。

伊藤委員：私は丁寧に見たら増えたというのは良いというつもりでお聞きしている。

教 育 長：丁寧に見ることは大事。一般的に、保育園ではともすると子どもを分けたがる。加配をもらうためできるだけ教えやすい子だけ集めてそうでない子をまとめるという話もあった。今、1対1で対応している職員もいる。極端な話、35人がそういう子になると大変。両刃の剣で、そういう面があることも気を付けないと。

委 員 長：ほかの自治体に比べて丁寧さはどうなのか。多めに出がちなのかどうか。

相 談 員：先生方の気持ちの中には、心配なので支援委員会にあげて、という気持ちはあると思う。

教 育 長：この地域で子どもを丁寧に見ることを始めたのは駒ヶ根市で、宮田も見習った。

職務代理：小さなうちから支援してあげると、大きくなった時にひどくならなくて済むからと以前お聞きしたが、そうですね。

教 育 長：そうです。しかし、この小さな村で特別支援学級が6クラスとは、県内でも特別だと思う。次回、一覧表を用意したい。

相 談 員：複数の学年を一緒にし、障がいに応じてクラス分けして手厚い支援をする。

古藤委員：先生の手配は？

教 育 長：3人以上で一人、9人を超えるともう一人県から来る。3~4人なら抜ける場合もあるので、県から正規でなく身分上年度途中でやめてもらえる非常勤の人が来る。宮田の場合は来年度全部正規が来る。インクルーシブといってどんな子も包み込んで市町村立の学校で通えるように、国の障害者支援法が2年ほど前に変わった。今後、通常の学級に入ってくることはありうる。養護学校に行けば独り立ちに必要な専門的技能を身につけることもできる。子どもさんの将来のために選択してあげるのも、就園就学委員会の大事な役割。

委 員 長：委員会も荷が重たくなっているわけですね。委員の皆さんご苦労様です。今後ともよろしくお願いします。よろしいですか。

委 員：はい。

報告3号 うめっこらんど運営委員会の報告について (別紙)

子育係長：資料について説明

2/27 うめっこらんど運営委員会を開催。事前に資料を配布し反省と来年度の説明をした。

遊ゆう広場について

イベントを充実させたこともあり好評だった。課題は、時代的に早めに仕事に出るお母さんが多く、遊ゆう広場の登録者が減少傾向にある。来年度は、施設長が検診に出向いてチ

ラシを配ったり、有線放送などでうめっころらの宣伝をする予定でいる。

児童館について

食物の勉強や会食を楽しむ食育を月一回開催。少人数だがみんな楽しみにしており、大事な場所になった。今後は学習室と集会室を開放し、中高生の利用増進を目標とする。

学童保育について

受け付けで出席簿を利用し、アレルギーなど必要事項を保護者に記入してもらうようにした。人数が多い中でもスムーズに受付ができた。課題は人数が非常に増えていること。学童は親御さんが面倒を見られない子供が対象なので該当するか見極め、該当する子がしっかり利用できる施設にしたい。

ファミサポについて

利用会員の人数が増え、全体の利用は113件と大幅に増えた。来年度は700円を500円にして、利用増進を図り充実したい。子育て講座には一般の方にも参加していただき好評だった。料金は資料のように変更予定。学童保育は年度初めの4月3日を新年度準備日とした。利用の仕方や緊急時の対応について周知するため、手引書を作り配布する。

委員長： 議会は通ったのか。

教育長： 議会へはこれから提案します。

古藤委員：ファミサポは一人の人が多く利用されているということだったが、他はどうでした？

子育て係長：全体的に増えています。

伊藤委員：児童館の食育と学童の月1000円のおやつとの関係は？

子育て係長：児童館と学童は別。今まで食育の材料費を取らなかったが来年度から実費をいただく。

伊藤委員：やる方は大変だが、いいこと。ただ、食中毒などが起こるとややこしくなる。

教育長：それは大事。ノロウイルスはどんどん増えるので手洗いなど相当注意しないとイケない。

古藤委員：保育園のお餅つきで子どもたちはビニール手袋をしているが、手袋に黄な粉などが付くとそれを食べるのでその瞬間先生たちが子供を抱えていく。子どもはついやってしまう。

委員長：よろしいですか。

委員：はい。

## 9 その他

(1) 当面の日程について 3～4月 (2 ページ)

次 長：資料について説明

教育長：補足。ソウルの教育委員会との提携もあり、村長の要請で韓国に行くことになった。

3/31 県費教職員感謝状伝達授与について。5年前までは県庁で感謝状を渡されていたがその後はここで行うようになった。委員さんも可能であれば出ていただきたい。

小中新任教職員辞令交付について。4/3に新任の先生に渡す辞令を、教育委員会から委員長は中学校、職務代理は小学校の校長に渡していただきたい。4/27の総合教育会議はこちらの主催ではなく村長が招集するので、かっこ書きにしておいてください。

伊藤委員：韓国行きの話がよく分からなかった。

教 育 長：韓国の修学旅行生が、姉妹都市の田原市に来て名古屋市内研修後、宮田に来て宮田観光ホテルに泊まる。

委 員 長：特に委員会として何かというわけではない。提携もしていないし。

伊藤委員：提携はしていないが定期的に来るなら大事にして、もっと関係を深めたらいい。

教 育 長：そういうこと。今後さらに連携を強めたいということ。

委 員 長：よろしいですか。

委 員：はい。

## (2)その他

### 一般質問について

次 長：教育委員会関係の質問について、資料により説明

子育係長：保育園の送迎時のチャイルドシートの装着率は50%を切っていた。車にシートベルトをつけているのに装着していない。

教 育 長：交通安全について、教育委員会の皆さんで声明をやったらどうか。去年から同じ交差点で3人ぶつかっている。

学校係長：北割から降りてくるニッパツ脇の交差点で、横断歩道に小2生が飛び出してボンネットの上に乗ったが、けがは擦り傷程度で済んだ。左側に児童がいても家の陰になって見えないうと思う。横断歩道で渡るところで逆光になり、車は右からくる車の方に気がいって気づきにくい。今、先生たちが立って指導している。

教 育 長：先生たちも立ち続けるのは大変なので何とかしないと。教育委員会として、安協に至急改善してもらいたいと文書で上げてはどうか。信金前の横断歩道も危ない。PTA会長さんからも何とか働きかけをしてもらってはどうか。減速帯や、カラー塗装をすとかした方がいい。子どもの命なので、至急何らかの対応が必要。

伊藤委員：昔からあそこは事故が多い。ニッパツの駐車場から会社に行くところに横断歩道がある。そこは見やすいので活用して、小学生もそこを渡るようにすればいいと思う。

職務代理：道路が広くなったらスピードが出せるようになり事故が起きるようになった。信号をつけてもらえれば一番いいのではないか

教 育 長：具体的な提言として、信号の設置はお願いしていいと思うが、時間がかかる。短期的なものや長期的なものを要望した方がよい。緊急に教育委員会から議会事務局にあげて、公安委員会へ要望の書類を出して良いですか？

委 員：はい。

教 育 長：村道をいじるのに警察の許可がいるの？

次 長：「止まれ」などでなければ必要ない。減速帯を付けるのは村でできる。

職務代理：西保育園北側の交差点で、逆光で信号が見えなくなる時がある。

古藤委員：寿司よしのミラーの角度が全然合っていないくて、人が見えない。

教 育 長：この間、会議の時に区長会長さんに話をして、区長さんの方で検討して下さるということだったので、あらゆる方面でやっていきたい。

(子供の数の変化について)

教 育 長：28年度中に生まれた人数は60人前後。役場の職員も含めて結婚してない人を何とかしていきたい。

職務代理：私は県の婚活サポーターをしています。結婚を考えている方を紹介してください。

(6月の研修旅行について)

教 育 長：日本で最初に小中一貫教育をやった佐賀県多久市の学校を研修旅行の候補にあげた。

職務代理：福岡は別ですか？

教 育 長：福岡はアクティブラーニングの学校。小中一貫をやがて考えていかなければいけない。30～40年後には、どこの市町村も小中別々に校舎を建てるのは難しくなる。我々は教育の面を一番考えるが、そういう面も考えなければいけない。

委 員 長：小中一貫の良さ等、理論的根拠は何ですか。

教 育 長：そこも含めて学校を見に行くことは意義あること。

委 員 長：今までは中一ギャップの解決のためと聞いていた。

教 育 長：子供の発達段階が以前とは変化している。どんな風がいいのか今後研究していく。

伊藤委員：駒ヶ根と一緒にいる話が10年おきくらいに出てくるから、行政が動けずまとまらないのかと思っていた。

教 育 長：そんなのは関係ないと思う。

職務代理：大滝小中は何でした？

教 育 長：もともと小さな学校で、一緒にないとやっていけない。上伊那では両小野も同じ。一番は教育の質はどうなるかを考えていかなければいけない。

委 員 長：財政的に言えば、統合すれば校長が一人ですみ、安上がりになる。

教 育 長：国はそういう方針もある。宮田は小中一貫をやりやすいが、小中の職員は水と油くらい違う。研修で学ぶことは大事。

(県教育委員会の書類について)

教 育 長：駒ヶ根工業高校の卒業式で県教育委員会から渡された書類で、県が県民の皆さんからの意見をまとめたもの。

(3) 高校入試について。県は入試を変えたい思いがあるのではないか。

(8) 都市部普通校の学級規模の根拠が不明について。大きな学級数を持っていないと学校の教育活動に支障が出る。都市部普通校の学級規模は6学級以上が望ましく、8学級以上を目指す。どこも、学級数が減っているので、上伊那地区でも伊那北高校と弥生ヶ丘高校の合併や、駒ヶ根では総合学科の学校として工業も組み入れることも考えられる。今後情報を得ながらいきたい。

(女性教育委員部会について)

委 員 長：駒ヶ根市の北原教育委員長より、宮田村には女性教育委員部会の役員を受けたいということだった。

職務代理：来年は女性の部会には登録しないで下さいと、平澤さんにもお願いした。

古藤委員：更埴の方から先週電話がかかってきて、理事を受けてもらいたいと。

職務代理：私の考えでいくと、今頃女性云々と分けて考えることはどうかと。「いいお勉強をする」というので、「ではなぜ女性だけお勉強して男性にそれを開かないのですか」と言ったら、電話を切られたのです。

教育長：お気持ちは分かるけど、差別ではなく。1年の当番だけ受けてはどうです？

古藤委員：私は、今回はお断りしたつもりだったのですが。更埴の方が「宮田村としてあなたは言っているのですか？」と言われて、「私は、個人として今回はお受けできません」といったら、「宮田で決まったようだったら、ちょっと考えなくてはいけませんね」みたいなことを言われたのですが。北原さんにそのまま伝わったのではないかと。

教育長：会合は一回行けばいいから。

職務代理：そうでもないようです。安曇野に月一回集まって、更埴の辺りで大会を一回行う。遠いのでまだ出たことはない。

古藤委員：登録はしていてもいいと思うが、鷹野さんと私が辞めたあと、女性の方が勉強したいと思われればいいと思う。役は当番ですか？

職務代理：持ち回りでもなさそう。全然出ないのに登録して一人5000円払う。どうせ行かないのだから、そんなに払わなくていいと思う。村から無駄な出費はしなくていいかと。

子育係長：鷹野さんが他所の地域では入ってない人もいると聞いたので、調べてみます。

委員長：そういう話なら、お断りするしかないね。

教育長：検討したけれど、いろいろ事情があってお受けする気持ちになれないと。個人でなければ会費だけは納めておけばいい。

職務代理：そういうことで、よろしくお願いします。

委員長：よろしいですか。

委員：はい。

委員長：本日はお疲れ様でした。

・次回定例会：4月27日(木) 13時30分 村民会館 第1研修室